



TITLE:

ブラジルに於ける移民制限問題

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. ブラジルに於ける移民制限問題. 経済論叢 1935, 40(1): 32-51

ISSUE DATE:

1935-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130548>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷 第一號

昭和十一年一月一日發行

新年特別號

免稅點以下の小所得者への地方課税.....	法學博士 神戸正雄
勢力關係の性質.....	文學博士 高田保馬
ブラジルに於ける移民制限問題.....	法學博士 山本美越乃
政策研究に就て.....	經濟學博士 作田莊一
農業政策の擔當者としての産業組合.....	經濟學博士 八木芳之助
漁村經濟調查論.....	經濟學士 蜷川虎三
私經濟との比較による財政の本質.....	經濟學士 中川與之助
自由主義の論據.....	經濟學士 柴田敬
フランス・フランスに就いて.....	經濟學士 松岡孝兒
山口藩に於ける幕末の洋式工業.....	經濟學士 堀江保藏
支拂準備の法定に就て.....	經濟學士 中谷實
獨この漁場入會制度に就いて.....	經濟學士 岡本清造
積荷單獨海損填補方法の吟味.....	經濟學士 佐波宣平
ロッシャーの歴史的方法.....	經濟學士 白杉庄一郎
經營信任會の效果に就いて.....	經濟學士 大塚一朗
貿易統制の制限性と促進性.....	經濟學博士 谷口吉彦
酒税の改正.....	經濟學博士 汐見三郎
現金の流通と預金の増減.....	經濟學博士 小島昌太郎
國益主法掛について.....	經濟學博士 本庄榮治郎
新着外國經濟雜誌主要論題.....	

ブラジルに於ける移民制限問題

山本美越乃

北米は我が移民の鬼門であるが南米は之に反して安住の樂土であるとは、從來何人も考へ又口にして居つた所であるが、其の南米ブラジルに於て最近憲法の改正を機會に移民制限の條項を設けられた事は、晴天の霹靂にも増して我が國民の一部に驚異的の衝動を與へた大問題である。併し事の成るは其の成るの日に成るにあらず、ブラジルに於ける我が移民の制限問題の如きも其の由來する所は可なり古く、決して一朝一夕に起つたものではない、從て今次の移民制限問題の本質を知らんと欲せば、先づ其の由來に溯つて之を考察することが必要である、故に本號に於て吾人は其の由來沿革を明かにし、然る後次號に之が對策に關する卑見を述べて見ようと思ふ。

昨一九三三年十一月伯國リオ・デ・ジャネイロ市に開催されたるブラジル憲法審議會は、憲法起草小委員會の立案を基礎として編纂委員に於て起草した新共和國の憲法原案を慎重に審議して之を憲法制定の本會議に附し、一九三〇年の革命以後一時獨裁政治の下に置かれた伯國を、再び憲法政治の常軌に引戻さんとする準備工作の爲に開かれたものであるが、該原案に對しては政黨方面及び議員中よりも多くの修正案が提出された爲に、更に各州の代表議員一名及び之に階級代表

議員を加へた特別委員會に於て審議修正し、最後に本會議に附して之を確定公布することとなつた、然るに右の原案に對する修正案中に外國移住者に關する條項があり、其の中でも殊に我が移民に關係を有する四案が提出された、而して其の四案の要旨は日伯新聞の報する所に依れば次の如きものであつた。

(一) 移民ノ入國許可ハ白色人種ニノミ限り、且ツ國內ニ於ケル彼等ノ集團ハ之ヲ禁止ス。

(二) アフリカ移民ノ入國ヲ禁止シ、アジャ移民ハ年々現在數ノ五%マテ入國ヲ許可ス。本規定ニ抵觸スル各州ノ移民誘入契約ハ之ヲ無効トス。

(三) 其ノ出發地ノ何レタルヲ問ハス黑色并ニ黃色人種ノ入國居住ヲ禁止ス。

(四) 法令ヲ以テブラジル人種型ノ構成ニ必要ナル手段ヲ講シ、其ノ促進助成策ヲ聯邦ニ一任スヘシ。

(イ) 此趣旨ニ基ク各州ノ對策ヲ援助スルタメ專門委員會ヲ設置シ特ニ人種改良及ヒ教育問題ニ留意セシム。

(ロ) 國內ニ於ケル同一國民又ハ同一種族ノ外國移民ノ集團ヲ禁止ス。

而して是等の案に付て其の提案者等の理由として述べる所は殆ど千篇一律であるが、其の主なる理由とも稱すべきものを舉ぐれば、

(一) ブラジルの如き新開國に於ては國民型の構成に細心の注意を拂ふ必要がある、此の點より考へ

て歐洲人は集團的の生活を営まざる限りは、單に入種としては其の入國を拒否すべき理由はな
いが、黃色人種はブラジルの國民型の構成に不適當なる人種である、從て彼等の入國を自由に
許す時は、國家の興亡に重大なる關係を有する鞏固なる國民型を作り得ない。

と言ふ白濠主義・白亞^(アルゼンチン)主義等と殆ど其の軌を一にせる白伯主義に根柢を置くもの。

(二)風俗・習慣・教育・宗教等を異にし、然かも國民型の統一完成に必要な是等の要件に關して日本
移民は同化性を有せざるのみならず、却て伯國人より分離して自國の風習を固執し、其の移住
地を自國化せんとする風がある、日本人は移住地を新なる故郷と考へずして故國の延長であり
新日本の建設であるかの如くに考へて居る、各國移民の同化度は伊太利・西班牙等の南歐人を
一〇とせば獨・澳等の北歐人は七、日本人は一乃至二の割合である、故に斯かる移民はブラジル
の國民型の構成分子としては不適當である。

と言ふ所謂日本移民の不同化性を其の理由とするもの、

(三)日本移民は其の移住國たるブラジルの官憲を尊重するよりは、自國の在伯官憲を尊重せんとす
る風がある、例へば各種の届出の如きも之をブラジル官憲に提出せずして却て自國の領事館に
提出するが如き、其の他教育に於ても醫療に於ても事々に自國本位である、又獨逸人にも其の
傾向があるが日本人は殊に集團性が強い、ブラジルの國民型構成の重大問題たるを思ふ時は移
民の配置には慎重なる考慮を要し、國民型の構成と移民招來の經濟的事由とを調和せしむる必

要がある

と言ふ伯國內に於ける同一國民又は同一人種の孤立的集團生活に反對するものは是れである、提案者の理由とする所を細かに拾ひ上ぐれば尙ほ此の他にも種々の點が擧げられて居るが、併し大體に於て以上要述せるが如き理由が其の主なるものである。

而して是等の諸案は其の後内外の情勢より推して本會議通過の見込なしとの情報を耳にしたるに、本年五月に至り突如として議會の討議に上り、更に移民制限案の支持の爲に以上の理由の他に、『外國移民の重壓に苦める内國勞働者の保護の必要』よりするも、憲法審議會は是非共此の問題を解決せねばならぬと云ふが如き新なる理由の附加せらるゝあり、甲論乙駁兩日に互り賛否兩論者共に各方面より腹藏なく意見を闘はしたが、伯國醫學界の重鎮ミゲール・コウト氏（議案通過後六月六日突如長）の提出した修正案は既に百三十名の賛成署名を得て居つた爲に、五月二十四日の本會議は投票の結果一四六對四十一の絶對多數を以て、所謂移民の二分制限案なるものを可決確定して之を法文化することゝなつた、其の全文は傳ふる所に依れば次の如くである。

移民ノ入國ハ人種ノ統一及ヒ移民ノ體質智能ノ保障ヲ條件トシテ制限ヲ受クヘシ

各國移民ノ年間入國數ハ最近五十年間ニ我カ國ニ定着セル當該國人總數ノ二分ヲ超ユルヲ得ス
聯邦領土内何レニ於テモ移民ノ集團ヲ禁止シ外國人ノ撰擇居住同化ニ關シテハ法律ヲ以テ之ヲ
定ム

故に本法が規定通りに嚴重に實施せらるゝ曉には、主なる移出國の移民の入國許可數は大要左の如くで、我が移民の如きも一ヶ年二千八百名内外に制限せらるゝ譯である。

國 名	最近五十年間ノ入國數	二%	國 名	最近五十年間ノ入國數	二%
伊 太 利	一、四〇一、七五二	二八、〇三五	露 西 亞	一〇六、六三九	二、一三三
葡 萄 牙	一、一四三、一七四	二二、八六三	奧 太 利	八四、三六五	一、六八七
西 班 牙	五七五、八〇三	一一、五一六	土 耳 古	七九、五三三	一、五九一
獨 逸	三三四、一一八	六、六八二	ルーマニア	三八、〇四九	七六一
日 本	一四二、四五三	二、八四九	ポーランド	三七、一一五	七四二

(以上『ブラジル』第八卷第八號ニ據ル)

元來移民は植民と異なり之を如何に取扱ふべきかと云ふ事は全然移入國の自由であるが、面積に比べて人口の遙かに少いブラジルの如き國に於て、殊に外來移民に關して問題の紛糾することは一見奇異なるに似て實は然らずで、嘗て一度黒人の血に依りて汚されたる伯國人は、彼等の所謂新國民型の構成に再び其の轍を蹈むが如きことなからんを期し、從來と雖も移民の撰擇決定に關しては飽く迄自主的の態度を固持し、人種・素質・員數・移住條件・入國手續・耕地配分等の諸要件に付ては獨自の決定權を確保し來つた、從て我が移民の入國に關しても今日迄決して問題が起らなかつた譯ではない、我が國の移民がブラジルに上陸したのは明治四十一年六月十八日に笠戸丸で到着した七八一名を以て先驅となすが、當時ブラジル人の眼に映じた日本人は、唯彼等の好奇心を満足せしむる程度のものであつた、然るに是等の移民の大半は入國後未だ半歳ならずして耕

主と事を構へ、州政府より渡航費の補助を受けたるに拘らず耕地に定着せるは僅かに其の一小部分で、他は或は州外に奔り或は自由労働に轉職した、尤も此の第一回移民の不成績は當時の彼我官憲の意見に依れば、農業労働に經驗なき獨身者が多數を占めて居つた爲で、農民より成れる家族移民は必ずしも不成績ではなかつたと云ふ事であるが、兎に角此の時より我が移民は既に問題視せられて居つたことは事實である、第二回の移民(四四七家族 九〇九人)は明治四十三年六月二十八日にブラジルに到着したが、第一回の者に比較せば好成績で第一回の者は上陸半年後に既に四分の三の退耕者を出したが、第二回の者は四分の一に止まつた、併し耕主との關係は必ずしも圓滿ではなかつた、爾來大正三年に至る迄前後合せて十回三千餘家族約一萬五千人の移民を送つたが、同年三月伯國サンパウロ州政府は日本移民の成績良好ならざるの故を以て、將來は渡航費の補助(三歳以上七歳迄二磅五志、七歳以上十二歳迄四磅十志、十二歳以上九磅)を中止すべき旨を移民會社に通告し來つた、而して其の最も大なる理由は我が移民に定着心なく其の移動性が大であると云ふ事であつた、之れ實に我がブラジル移民に下されたる最初の鐵槌である。

然るに其の後歐洲戦争の勃發は、端なくも再び我が移民に門戸を開放せざるを得ざらしめた、蓋し歐洲戦争は常に歐洲移民の新なる渡來を不可能ならしめたるのみならず、現にブラジル在住の自國移民をすら之を召集して本國に歸還せしむる必要を生じた上に、當時歐洲諸國に對する農産畜産等の生産物の輸出の増加は、漸次斯かる有利なる輸出貨物の生産方面に獨立的の進出を試み

んとする者を續出せしめ、一勞働者としてコーヒ耕地に安住の地を求めんとするが如き者の數を著しく減少せしめたるを以て、伯國側よりせば茲に再び日本移民の招來を考慮せざるを得ざる機會を開くことゝなつたが、他方我が在伯移民側よりせば歐洲諸國に對する輸出農産物の需要の増加は、又彼等に歐洲移民と同じく單純なる耕地勞働者より一躍して獨立農業者たる地位を得せしむるに絶好の機會を與へたのである、故に我が在伯移民の獨立的の地位は此の時代より漸く曙光を認めらるゝに至つたと稱しても可い、此くしてコーヒ耕地の勞力の缺乏に苦めるサンパウロ州政府は、日本移民の渡航に對して『農業者にして家族を構成すること』を條件として、大正六年より同九年迄四ヶ年間補助金を交付することゝした、固よりブラジル政府としては日本移民よりも歐洲移民を欲したのであるが、急速に其の渡航を望めなかつた爲に止むなく日本移民を迎へたものであることは、當時の事情よりしても容易に察し得るのである、此の如くして兎にも角にも大正六年六月十八日に我が移民（三四六家族
一三四二人）は再びブラジルの地を蹈むことを得たのである。

歐洲戰後に於ける各國の情勢は、一時國際聯盟等の機關を設けて世界平和の理想の實現に努めたるが如き觀あるも、元來戰爭の慘劇に刺戟されたる一時的の興奮狀態の齎せる國際平和論に過ぎなかつた爲に、其の興奮狀態より醒むると共に再び國家的及び國民的對立意識の擡頭となり、其の自然の結果として移民問題に關しても人種的差別感の鮮明なる背景が現はるゝことゝなつて來た、對伯移民問題のみ獨り超然として其の圈外に立ち得べき筈がない、前述の四ヶ年間の期限

の到來と共に州政府の補助は次第に減少せられ、大正十五年に至りては全く之を廢止せらるゝこととなつた、之より先き大正十一年に州政府が我が移民に對する補助金の交付を拒絶した際の表面の理由は、矢張り日本移民の定着心の缺乏・移動性の大と云ふ事に在つたが、併し其の裏面には今日の移民制限論者の所謂ブラジル國民型の構成なる觀念が胸奥に潜むで居つたことは、當時の州政府の農務長官の言に徴しても之を察知することが出来る、曰く『本年州政府の補助移民の誘入は總體に於て一萬人を許可せられたが、其の國別は葡萄牙・西班牙・伊太利の三國である、
(註)南歐諸國は南米諸國の母國とも稱すべき關係に在り』日本は獨・澳の一國と共に許可を與へられなかつた、耕主は葡・西・伊の三國の移民が言語を容易に了解し、且つ各耕地に同國人多きため速かに耕地内の農業勞働に適するに至る事を主なる理由として後者よりも寧ろ前者を撰むのである云々』と。

世界大戰が歐洲移民の渡來を阻止し、自國産業の興廢を決すべき農業勞力の缺乏を如何にして補充すべきかとの問題に直面したる時代には、人種の如何を問ふの暇なく我が移民に對しても握手を求めんとする態度に出たのであるが、戰亂一過歐洲移民の招來に希望を繋ぎ得べき機會を發見するや、我が移民の初期に於てこそ諸種の事情の爲に著しく定着性を缺けるも、歲月の經過と共に次第に安定してコーヒ耕地の勞働に親しまんとする風を生じ來れるに拘らず、尙ほ初期印象の遺物たる移動性の大を理由として補助金を廢止せんとする方針に出でたことは、國際情誼上人種的差別感を露骨に表明し得なかつたからであるが、今や遂に狡兔死して走狗蕪らるべき時が來た、

即ち大正十二年十月二十二日伯國ミナス州選出代議士フィデリス・レイス氏に依りて聯邦議會に提出された黑人移民禁止及び黃色人移民制限案なるものは、正しく此の役割を勤めたもので、從來の日本移民の取扱に關する問題とは全く其の性質を異にし、名は制限案と稱するも其の實は排斥案の本質を多分に包含せるものである、該法案は七箇條より成つて居るが其の第四條及び第五條に次の如き規定の存する事は最も注目すべきことである。

政府ハ國民ノ人種的精神的及ヒ體力的組成ニ有害ト認ムル一切ノ分子ノ入國ヲ遮止スルタメ其ノ何レノ地ヨリ來ルヲ問ハスブラジルニ渡來スル移民ニ嚴重ナル取締ヲ爲スヘシ。(第四條)

黑人ノ移民ハブラジルニ入國スルコトヲ禁ス、又黃色人ハ該人種ニ屬スル國內現住者ノ三分ニ相當スル數タケ毎年入國ヲ許可スヘシ、(第五條)

而して其の提案の理由は、移民問題は單に經濟的にのみ考ふべき問題ではない、更に一層重要なブラジル國民の構成上より考慮せらるべきである、サンパウロ州が經濟問題のみに捉はれ黃色人の移民を誘入したるが如きは、大なる後患をブラジル國に遺すものと言ふべきで、吾人は既に黑人を誘入したる過ちあり、此の上黃色人を誘入して過ちを繰返すに忍びないと謂ふに在つた、然るに該案は農工委員會に附託となり、委員會はサンパウロ州選出議員ジョアン・デ・ファリア氏を報告委員に命じた爲に、同氏は本問題に關する輿論の趨向を知らんとして、當時州内の有力なる農業者及び學者等に依りて組織されたる三農會(ブラジル農業聯盟・サンパウロ州農會・ブラジル田園協會)の

意見を徴することゝなつた、然るに是等三農會の意見は大體に於て黒人移民は禁止すべきであるが、黄色人の移民は無制限に之を入るゝ事は避くべきも、適度の制限の下に入國せしむることは差支なからんとする事であつた、故に該委員の一人は黒人移民の入國は之を禁止するも、黄色人に付ては耕作に従事し且つ既に農業者たることを各州に於て認めらるゝ者は、同一人種に屬する者百分の五に相當する數の入國を毎年許可すべしとの修正案を作成して委員會に提出し、委員會は全會一致之を可決した、斯くして本案は聯邦議會の本會議に附せらるゝ前に、更に慎重に之を審議せしめんが爲に財政委員會に廻附されたのであるが、同委員會の報告委員となつたオリベイラ・ボテリヨ氏は我が移民に對して理解と同情とを有する有力なる政治家であつた爲に、其の報告は財政委員會を動かし、レイス案は氏の反對の爲に終に本會議に附せらるゝことなくして葬り去られた、ボテリヨ氏は報告書作成のため約二週間に亘りて我が移民地の實情を視察し、各方面より反對論者の論據に對する反證を擧げて徹底的に其の謬見を指摘し、最後に黒人の入國禁止に關する前半の規定は之を存するも、黄色人に關する後半の規定は之を削除すべき事を提議して、委員會は之を可決したものである。

此の如くしてレイス案は議會の本會議には上らずして葬られたのであるが、併し日本移民の排斥乃至制限問題に關してブラジル國民の注意を喚起せしめ、輿論を沸騰せしめた反響は頗る大なるものがあつた、レイス案の出る迄にも我移民に對しては種々の反對論のあつた事は、既に前に

も述べた如くであるが、レイス案は從來の薄弱なる論據に代ゆるにブラジル國民の人種型の構成上相容れざるものがあると云ふ點に其の主力を傾注したことが、比較的有識階級の關心を購ふたようである、今次の移民制限案に死の犠牲を拂ふたミゲール・コウト氏が伯國醫學協會々長として『其の言語・風俗・宗教・精神等に於て絶對的に吾人と同化し得ず、近き將來に於て深憂の種ともなるべき多くの亞細亞人を誘入する事は最大の罪惡である』との有名な排亞思想否其の實は排日思想を公にしたのも此の當時であつて、兩者の間には此の時代より思想の系統上に一脈相通するものがあつた、従てコウト氏の今次の提案の如きも決して一朝一夕の考案に出たものではなく、其の沿源する所は相當に古く又相當に粘り強き根柢を有して居つたものであると云ふ事を知ることが出来る。

レイス案の提出せられてより以後、黃色人の移民の可否に關しては甲論乙駁殆ど底止する所を知らざる状態であつたが、其の中で特に茲に紹介を値するものが二つある、(其の一)は大正十二年十月サンパウロ州上院議會に於て、パドウア・サーレス氏がレイス案に言及して『若し吾人にして豊富なる勞力を有したらんには、或は某國の如くに制限法を設け得たるやも知れざるも、我が國は國土の大に比して著しく人口の不足を感じて居る、故に吾人の爲に絶大の貢獻を爲し來れる黃色人の入國を禁止せんとする如何なる方策もそは全く不當である、吾人の經驗に依れば却て日本移民を増加せしむべきで、斯かる協力者の入國を妨げんとする如何なる方策に對しても同意する

を得ない、物質上精神上の進歩を求めんが爲に吾人と協力し運命を開拓せんとする者は、其の歐洲人たると米國人たると將又亞細亞人たるとを問はず之を排斥すべきではない』以上の理由に依り『我が國に好ましからざる者に非ざる移民の入國に關して、如何なる移民の入國に對する如何なる制限にも反對の旨を聯邦議會に表明する事を請願する』と云ふレイス案とは全然反對の意見を發表して、我が移民の爲に萬丈の氣を吐いた事であり、(其の二)はブラジル中央農會々長リーラ・カストロ氏が、我が移民問題に直接關係を有する農會としての意見を立つる必要上、全國の農會・學會其の他有力家に對して六千通の諮問書を發して意見を徴し、之を資料として中央農會の意見を定めんとする計畫を樹てた事である、然るに該諮問書に對して回答を寄せたる者は僅に百六十六通であつて、我が移民の可否に關する意見は左表の如くに分れた。

一定の條件(例へば數の制限の如き)の下に日本移民の入國を許すべしとなすもの 七五

日本移民の入國を望まざるもの 七九

何等の意見を附せざるもの 七

全然外國移民の必要を認めずとなすもの 五

而して茲に最も注意すべき現象は、ブラジルに於ける日本移民の根據地とも稱すべきサンパロ州の回答四十一通中、日本人の入國を認むべしとなすものは二十通で、然かも其の中無條件入國を可とするものは僅に三通であり、又日本移民の入國に反對するものは其の根據を一樣に人種問

題に置いて居つたと云ふ事は、吾人の輕々に看過してはならぬことである。

以上の事實を綜合して考ふる時は、ブラジル人中には我が移民の長所を認めて其の入國を心より歓迎する者も全く無しとは言へぬが、併し入國賛成者の多くは一方に於てはブラジル國民の人類型構成論者の論旨を撃破するに足るべき有力なる論據を見出し得ず、否内心に於ては寧ろ其の主張に共鳴せざるを得ざるものあることを知るも、他方に於ては公に之を是認するが如き態度に出づる時は、今日に至る迄日本移民の有利なる勞力を使用して、彼等の經濟的利益の増進を計り來れる既定の計畫に一大支障を生ずるの虞れがある、故に國民型構成論者の主張にも一部耳を傾けつゝ尙ほ自己の經濟的利益をも之が爲に著しく阻害せらるゝことなき様、一舉兩全の結果を收め得べき態度に出でんとしたる所より、條件附入國賛成論の如き中間説を採るに至つたものであらうと解することが、最も正鵠を射たる見解の如くに思はるゝ。

今次の移民制限問題の表面化するに至る迄の經緯は以上要述せるが如くであるが、尙ほ茲に特に吾人の注意を逸すべからざる一事のあることを附加へて置かねばならぬ、夫れは現今ブラジルに於て有識者間に漸次其の思想の禮讃者を増加し來れるアルベルト・トーレスの人種問題及び移民問題に關する意見である、最近『在伯日本人文化協會』に依つて編纂された『アルベルト・トーレスの思想とトーレス同志會に就きて』に據り、左に其の思想の一斑を紹介して移民制限問題に關する本稿の前半を終らうと思ふ。

アルベルト・トールレスは今より七年前に既に故人となつたが、嘗ては帝政後の共和運動の一方の重鎮として政界に活躍し、後リオ・デ・ジャネイロ州憲法審議會議員・聯邦司法及び内務長官・リオ州統領・聯邦大審判事等の重職に歴任した人で、政治家として世人の記憶に活くるよりは寧ろ哲學者として又社會學者として偉大なる感化を後世に遺して居る、其の著書は國際政治問題・ブラジルの政治經濟問題及び憲法問題等に廣く涉つて居るが、極めて自由な立場に立つ理想的の國家主義者で、彼は如何にせば國家を國際競争延ては戰爭の單位となすことなくして、共存共榮の目的を達せしむるものとなし得べきかと云ふ點に重心を置き、此の見地より「憲法改正問題」を論じて、現在ブラジルは獨立國家と稱するも實は植民地的の色彩が頗る濃厚で、國家的の組織・秩序・統制及び指導的精神を缺いて居る、唯廣大なる地域に人間が雜然と集團的に生活して居ると云ふに過ぎぬ、然かも是等の人々は各國移民の寄合世帯とも稱すべきもので、國民としての訓練もなければ又思慮もない、此の如き狀態では永久に強固なる獨立國家としての繁榮を望み得ない、故に之には先づ國家の指導的精神とも稱すべき憲法の改正を行はねばならぬ、然るに現在の憲法（共和革命後に制定されたもの）はブラジル國家の特殊性と云ふ最も重大なる事項を全然忘却して、殆ど北米の憲法の模倣とも稱すべきものである、憲法は其の國の國體・國民性・文化の程度及び社會制度等に立脚して制定せらるべきもので、斯かる點を無視して作られた憲法は憲法としての價值を有しない、ブラジルの社會狀態と北米の憲法制定當時に於ける社會狀態とは著しき相違があるに

拘らず、之を同一視して各州の自治に重きを置ける北米の憲法を其の儘ブラジルに適用した事は大なる誤りである、ブラジルには北米の如き自治的な社會制度の發達した州は殆どなかつたにも拘らず、憲法は州の自治に重きを置いて聯邦共和制を定めたが、此の如き制度は改められねばならぬ、即ち各州の權限を能ふ限り縮小して中央集權的に全體を統制する制度を確立することが急務であるとは彼のブラジル憲法改正論の要旨で、最近制定せられた新憲法は州の自治權を縮小して、聯邦政府に中央集權的の統制力を認めて居る點に於て、トールスの思想の影響を受けておるとも觀られて居る。

又「愛國心」に關しては、強力且つ統制ある國家を建設せんと欲せば、其の國民に愛國心を振興せしむる事が肝要である、愛國心は其の國民の歴史及び傳統に因つて長日月間に自然に培はるゝもので、ブラジルの如き各國移民の集合せる新國家に於ては、愛國心を喚起せしむべき國民的の根本精神を全體に把握せしむることは決して容易ではない、併し複雑人種國たるの故を以て愛國心を喚起せしめ得ないとせば、現代の國家は必ずしも同一人種又は同一宗教を信する者のみに依つて構成されて居らぬから、斯かる國民には愛國心を喚起せしむることが出来ぬと言はねばならぬが、此の如きことはあり得べからざる事である、瑞西は複雑人種國であるが統一されたる國民的精神の下に結合して居る、此の如き國民の愛國心は舊國民の愛國心の如き對外的意識の下に自國を愛すると云ふ本能的のものとか、又單に自國の利益の爲にのみ協力せんとする偏狹なる民族

的意識より來るものでもない、更に又自國民のみが世界に於ける最も優秀なる國民であると云ふが如き誇大的な感情を保持する爲の信念でもない、故にブラジルの如き複雑人種國に於ても、思想的に之を統一する國家的の指導精神を確立する事は固より可能であるが、併し其の指導精神は一國を益すると同時に全人類を益するが如きものでなくてはならぬ、現今のブラジルは未だ獨立國家としての國家意識に缺くる所があり、又其の指導階級に根本的な指導精神とも稱すべきものがない、各國移民の集團の如き社會狀態の下に於ては統一的な國民的精神は湧出しなない、新國家を形成すべきブラジル人の愛國心は單なる感情的又は熱狂的のものであつてはならぬ、國家に對する愛の表現が唯一時的の感情に依つてのみ激發されると云ふ事は、結局愛國心は戰爭を望むことであり、生命を犠牲に供する事を顧みないと云ふ感情に過ぎぬこととなる、新時代の愛國心は戰爭を希望するものではなくして、人類愛を理想とするものでなくてはならぬ、流血と殺戮の代りに生命を尊び互に相協力せんことを理想とするものでなくてはならぬ、我が國は廣大なる面積を有し住民の生活は容易にして生存競争の苦みを知らず、諸外國より移民及び資本を入ることによつて得たる利益の一部は國外に持去られたとは謂へ、尙ほ我が國に利益を與へたことは事實である、而して是等の移民の子孫の多くは我が國に止まり土人及び黒人の子孫と共に新社會を構成し來つた、此の如き社會に於ける愛國心は人種的の感情や宗教的の立場より起るものではない、各人が協力してブラジルを開發せんとする精神こそ、ブラジル人の愛國心を作るべき根本的の思

想であると論じて居る、故に彼の思想の根柢には人種的の差別感を有して居らぬ様に思はるゝが、併し此の點に付ては人種問題及び移民問題に關する彼の意見を窺ふた後に重ねて検討することゝする。

次に「人種問題」に付ても彼の意見は傾聽を値するものが少くない、即ち彼は人種には絶對的に優劣の差異はないと云ふ意見で歐羅巴人たると亞細亞人たると白人たると黒人たるとを問はず、人種として之を觀る時は其の間に優劣の差異はない、人間は體質的にも社會的にも強い適應性を有して居るもので、即ち周圍の狀況に従て種々に變化する、如何に歐羅巴文明を誇る白人でも劣惡なる環境に置かるゝ時は必ず退化する、之に反して阿弗利加の黒人でも之に文明的の教育を施し社會的の訓練を與へたならば、次第に進歩して文明人の域に達する、之を實例に徴するも獨逸・西班牙等の移民と居住地を共にして居る黒人は、彼等に比して著しく劣れりとは思はれぬ、歐洲の移民も土着後二代三代を經過せば其の間に人種的の優劣等は全然認められなくなるであらう、ブラジル人種は實に雜然たるもので印度人・黒人・白人・亞細亞人等の血が混入し、ブラジル人なる一定の血液を有する人種は存在しない、併し此の如きことは決して悲觀する要はない、時には印度人・黒人等の血を混ふるが故にブラジル人は劣等人種たるが如くに論ずる者あるも之は全く誤りである、唯問題は現在の雜多なる血液を一の型に作り上げると同時に、之が文明的の指導を誤らなかつたならば、立派なる國民となる事が出來ると論じて居る。人種問題に對するトールレスの意

見は實に堂々たるもので、歐米の人種的偏見論者等の極めて不徹底なる差別論等の到底足許にも及ばざるものである、併し此の説を彼の移民問題に對する意見と關聯せしめて考ふる時は、其の間に徹底を缺けるものがないとはいはない。

「移民問題」に對する彼の意見は、先づ移住の社會的意義より論旨を進め、移住は今世紀に於ては重大なる社會問題の一であるが、併し之は帝國主義的の意義を有する國家的の問題ではなくして、人間が其の貧困を個人的に解決せんが爲に決行する所のものである、現代の社會問題は個人の生存權を認むる點に立脚しなければならぬ、故に個人が其の生存を確保せんが爲に行ふ所の移住は、明かに人類進化の一過程としての運動である、ブラジルの開發進歩の遅れたるは發見後長日月間其の實情を知る者なく、熱帶的氣候の劣惡・産業的開發の困難等の流言蜚語に誤られて移住者なかりしが爲である、元來移住には出稼的移住と永住的移住の二種類があるが、前者は好意を以て迎へられない、移住なる事實は移出國に於ては之が社會問題の解決の一助となる點に於て重大なる意義を有するも、一時的の出稼移民は何等社會問題の解決に資する所なきのみならず、移入國にとりても好ましからざるものと言はざるを得ない、固より彼等と雖も移住地の産業の開發に貢獻する所少なからざる事は之を認むるも、其の移住せる新開國を強力なる國家たらしむる要素即ち國民の形成上には貢獻する所が少ない、今日に至る迄ブラジルには出稼移民はあつたが、國家の構成に役立つ永住移民はなかつたと稱しても可い、今後ブラジルに來らんとする移民はブラジル

國家のよりよき構成の爲にブラジル國民となりて協力せんとする移民たることを要する、此の如き目的を有する移民は其の何れの國より來るを問はず凡て之を歡迎すべきである、ブラジル國家の構成上種々の人種の入國は差支なきも、唯同一人種が一定の場所に集團する時は其の地方に外國の風俗・習慣・言語等が行はれ、延て外國政府の政治的干涉の行はるゝ様のことがないとしない、故に集團的の移民は不可である、ブラジルは今日に至る迄人口過剰の問題がなかつた爲に、移民の入國に依つて人口の増加する事は國家の繁榮の源の如くに考へ無制限に移民の入國を許して居るが、國家の構成は一時に多數の人々の來住することに依つて完成せらるゝものではない、堅實なる國家の發達は其の經濟力の發展に伴ふ人口の増加でなくてはならぬ、此の點より日本人・印度人其の他繁殖率の極端に旺盛なる人種を思慮なく入國せしむる事は考ふべき問題である、但し人口の過剰なる國より人口の稀薄なる國に移住することは移往の社會道德性より見て當然の事なるを以て、斯かる人種と雖も其の入國を絶對的に禁止するが如きことは不可である、故に此の如き人種に對しては入國數を制限すべきであると論じて居る。

以上はトーレスの思想の要旨であるが、之に依つて觀るも今次の新憲法が「舊憲法の各州の自治に重きを置けるに反して寧ろ聯邦政府の權限を強大化して中央集權的色彩を濃厚ならしめんとしたる事」、「統一されたる國民的精神の發露たる愛國心の喚起に重きを置かんとしたる事」、「人種の優劣感よりも寧ろ國家主義的國民型の構成に重點を置き此の見地より一般移民問題をも考慮せ

んとしたる事」、「ブラジル國家の構成上同一人種に屬する移民が一定の場所に集團的生活を爲す事を避けしめ、又或人種に對しては國策上其の入國數を制限するの必要ありと認めたる事」、等の諸點に於て如何にトールレスの思想の影響を受けて居るかと云ふことが分る。前掲レイス、ゴウト等の諸氏の移民問題に關する意見は、其の根柢に於て哲理的の基礎を持つて居る様に思はれぬが、トールレスの意見は此の點に於て新興ブラジル國の有識階級及び青年學徒の胸底に、深き共鳴と慎重なる考慮を促さしむるに充分であることは、彼の思想の禮讚者等が其の主義の宣傳を目的として、一九三二年リオ・デ・ジャネイロ市にアルベルト・トールレス同志會の本部を設け又地方には支部を設置して、彼の國家主義を基礎とせる政治意識の覺醒にブラジル國民を誘導せんとして居るのを以ても分る、斯かる際に適々憲法改正問題が起り新憲法の規定が其の精神に於て彼の思想を著しく反映せしめて居ることは、憲法制定者等をして偶然の暗合と言はしむるには餘りに其の近似性の大きなを如何せん、ブラジル國民も今や從來の如き統制なき雜種の移民國たる舊殻を脱して、統一ある國民的の覺醒運動に一步を踏出さんとしつゝある事は、現住移民も亦將來彼地に移住せんとする者も深く心に銘して、此の國民的運動を輕視することなく、能ふ限り之が達成に協力する心懸けがなくては、安住の樂土も終には鬼門となるかも知れぬ。